

1 研修計画

(1) 研究主題

問いをもち 対話を通して 学びを深め合う子どもの育成 ～ 聴いて つないで 考えを深める授業づくりを通して ～

(2) 主題設定の理由

①社会の要請から

学校教育法改正では学力の3要素が規定され、知識基盤社会の時代においては「生きる力」を育むという理念がますます重要となっている。新学習指導要領においては、育成を目指す資質・能力として「知識及び技能（何を理解しているか、何ができるか）」「思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）」「学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）」の3つの柱で整理がされている。さらに、授業改善として言語活動や体験活動が重視されており、「論点整理」においては、「問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか」「自らの考えを広げ深める、主体的・対話的な学びの過程が実現できているかどうか」「見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか」という視点が授業改善の考え方として示されている。

また、秋田県学校教育の指針では、「地域に根ざしたキャリア教育の充実」「『問い』を発する子ども」の育成」を重点として挙げている。

これらのことを踏まえ、本校では、「聴いて つないで 考えを深める」授業への改善によって、主体的・対話的で深い学びを具現化し、生きる力を育成する必要性を感じている。子どもたちの知的好奇心・自ら学ぶ意欲・探求心を喚起し、「聴いて つないで 考えを深める」学びの姿として自己、他者、ものやことと対話することによって思考を深める授業づくりを行い、様々なことに対応できる思考力、判断力、表現力等を育成し、生活を工夫改善し学んだことを社会に生かす態度を育むことが大切であると考えている。

②本校の子どもの実態と昨年度までの実践から

本校には、明るく素直で、与えられた課題に一生懸命取り組もうとする子どもが多い。積極的に自分の考えを表現しようとする態度も少しずつ高まってきている。しかし、公の場で自信をもって自分の考えを話すことや友達の考えに反応し考えをつないで対話し、自分の学びを深めていく力や態度がまだ不十分である。

昨年度までは、確かな学力の向上を目指して、「聴いて つないで 考えを深める」授業づくりを行い、PDCAサイクルを機能させ、授業実践と改善に取り組んできた。「ハーモニータイムで目指す児童の姿の系統表」を基に、今年度は、話し合うこと（ペア、グループ、一斉）の他にノートや黒板、ICTの活用での考えの交流を図ることも授業の中で取り入れ、実践していきたい。また、児童自身が学びの実感をもつためにも、本校が子どもに身に付けさせたい力「はまぐらパワー」をさらに浸透させ、活用をしていくことで授業改善につなげていきたいと考える。

昨年度の実践研究から明らかになってきたことは、次の通りである。

【 職員の振り返りから 】

○本校の子どもの実態として、こんな力が足りない・・・

①反応して聴く力・・・必要感をもって聴くこと。反応して聴くこと。

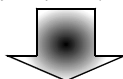
②説明する力（まとめる力）・・・自分の考えを分かりやすく説明する。多様な見方で物事を見つめ、いろいろなことと関連付けて考えをつないで、表現すること。

③語彙力（基礎・基本）・・・基本的な言葉や言葉の意味、社会的な事柄について。

*比較するためには、様々な体験や知識が身に付いていないとできないのではないかな。

*生活や授業で、子ども同士で教え合う中でいろいろな知識や技能を身に付けさせたい。

*根気強く探究しようとすることや、自分で切り開こうとする力（向上心）が足りない



- 目指す子どもの姿に近づくために・・・
 - ・「聴いて」 大事なことを落とさずに話を聴く力を伸ばす。
 - ・「つないで」 相手に伝える表現力を育成する。(語彙・話型・接続詞・気持ちを表す言葉等) 体験とつなげて、生活の中で実践していこうとする意欲をもたせる。
 - ・「考えを深める」 自分の中にしっかりと考えをもち、さらに考えを広げ、深めていくことができるようにする。
- ICTをどんな場面で活用していくか。
 - 考えをつなげる学習として活用する。(ノートに書くように)
 - 語彙力・経験不足を補っていくことを目的に活用する。
 - ドリル的な練習を目的に活用する。(計算力・漢字・ローマ字等)
 - プログラミング学習として活用する。

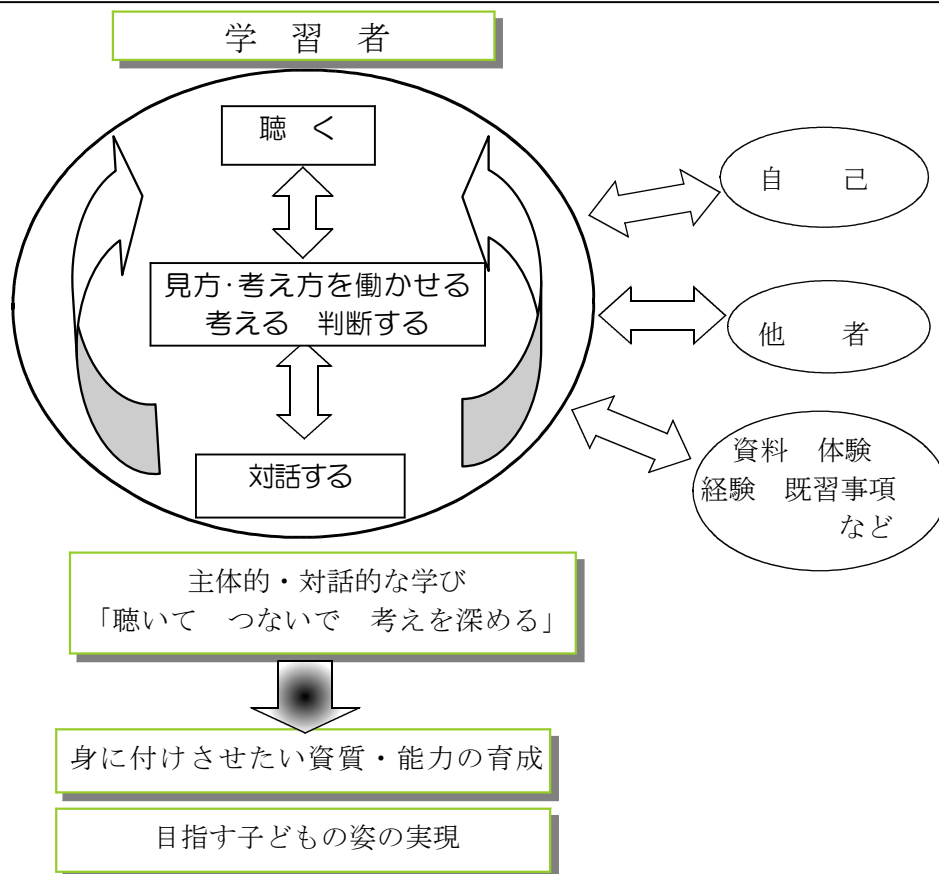
このような実態から、目指す学びの姿「聴いて つないで 考えを深める」ことのより具体的な姿を職員間で共通理解を図りながら研修を進めていきたいと考えた。

自分や友達の考え・教材や資料・経験等の情報同士を見方・考え方を働かせてつなげて知識・概念を更新し、関係付ける学びの姿「聴いて つないで 考えを深める」と表し、授業改善・研究を推進していきたい。

以上のことをふまえ、本校では新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を次のように捉えている。

< 角間川小学校の「主体的・対話的で深い学び」 >

「主体的・対話的で深い学び」とは、自ら問いをもち、自己や他者、資料等との対話を通して、知識・概念・学びを更新したり関係付けたりする「聴いて つないで 考えを深める」一連の学び。「聴いて つないで 考えを深める」とは、学びの順序を表すのではなく、同時に一連の学びとして行われていくものと考えている。



(3) 研究を通して目指す子どもの姿

「 問いをもち、主体的に学ぶ子ども 」

- 課題を見付け、解決方法を見通すことができる子ども
- 既習事項や経験をよりどころに自分の考えをもつことができる子ども
- 相手の思いや考えを受け止め比較して、自分の思いや考えと関係付けて伝えることができる子ども

(4) 研究の仮説

課題や発問を工夫し、「聴いて つないで 考えを深める」学びの展開によって、主体的・対話的で深い学びの充実が図られ、目指す資質・能力が育成されるだろう。

(5) 仮説に基づいた研究の重点（共通実践事項）

◇「聴いて つないで 考えを深める」授業づくり◇

- 1 「聴いて つないで 考えを深める」学びを意図的に設定した学習展開の工夫
 - (1) あたたかい聴き方・やさしい話し方の習得
 - (2) 思考を促す発問の工夫（比較、分類、関係付けるなど）
 - (3) 友達の考えに反応し、自分たちで考えをつないで響き合わせる時間（ハーモニータイム）の継続と充実（話し合い、ノートでの考えの交流、黒板の活用 など）
 - (4) カリキュラムマネジメントの視点で考える単元構成の工夫（地域の教育資源の活用 など）

- 2 「わかった」「できた」の学びの実感を引き出す手立ての工夫
 - (1) 本校が子どもに身に付けさせたい力「はまぐらパワー」の浸透
 - (2) はまぐらパワーを活用した見通しと振り返りの充実
 - (3) 語彙を増やし、伝える力を高める言語活動の充実（読書活動の充実、子ども新聞の活用 など）

(6) 研究組織

	部 会	内 容	メンバー
研究 推 進 委 員 会	I たがやす 【授業改善部】	① 共通実践事項の具体的取組の提案 ② 授業改善の推進 ③ 「あたたかい聴き方・やさしい話し方」各学年到達目標の見直し ④ 各教科の振り返りの視点の見直し *はまぐらパワーの活用 ⑤ 学習アンケートの作成、分析	
	II つづける 【日常活動運営部】	① 読書活動の充実 ② 子ども新聞の活用 ③ 全校テストの実施（学習の基礎・基本の定着） ④ 家庭学習の充実（家庭学習の内容検討、ノート展示会） ⑤ 詩の暗唱の継続	
	III ふかめる 【学力向上対策部】	① 全国学力・学習状況調査、秋田県学習状況調査への計画的取組と結果分析（フォローアップシート活用） ② 各調査の活用方法や授業への生かし方等 ③ ICTの活用など（ワンポイントアドバイス研修） ④ 感染症等流行時の対策（学習面） （*臨時休校時の学習について）	

(7) 仮説検証の計画

(1) 目指す子どもの姿の実現状況把握の手立てと規準

〔県学習状況調査〕(12月:4~6年)

「問いを発する子どもの基盤づくりに資する問題」、「活用の力を問う問題」で通過率が県平均と同等、あるいは設定通過率を上回っていれば概ね良好とする。

〔標準学力テスト〕(1月:1~3年)

「思考・判断・表現に関する問題」で通過率が全国平均と同等か全国平均を上回れば概ね良好とする。

〔学習アンケート〕(前期・後期)

共通実践事項を通じた学習に対する意欲や学習に対する満足度を数値(4段階)と記述で評価し、3以上であれば良好とする。意欲や学習に対する満足度がうかがえる記述が増えていけば概ね良好とする。

〔共通実践事項〕(5月~1月)

月ごとの評価(職員会議)と授業改善部での提案を行う。

研究授業を基にした協議と課題改善案の実践(実践報告)を積み重ねていく。

(2) 改善の計画

<短期>

【検証Ⅰ期 4~9月】

- ・全国学力・学習状況調査の分析、課題改善
- ・共通実践事項の実践
(月ごとの評価→分析
→翌月の重点共通実践)
- ・学習アンケートの分析
(成果と課題の分析
→ 共通実践の改善)
- ・チームによる研究授業への準備
→研究授業を基に協議
→成果と課題→課題改善案
→課題改善案を日々の授業で実践
- ・検証Ⅰ期による成果と課題
→Ⅱ期に向けた継続事項と改善策

【検証Ⅱ期 10月~1月】

- ・共通実践事項の実践
(月ごとの評価→分析
→翌月の重点共通実践)
- ・チームによる研究授業への準備
→研究授業を基に協議→成果と課題
→課題改善案
→課題改善案を日々の授業で実践
- ・秋田県学習状況調査・標準学力テスト
→成果と課題の分析→改善策
- ・学習アンケートの分析
→成果と課題の分析→授業改善
- ・検証Ⅱによる成果と課題及び改善策
→次年度への提言

【振り返りとまとめ 2~3月】

- ・今年度の共通実践事項の振り返り→成果と課題→次年度への提言
- ・部会による各部門での振り返り→成果と課題→次年度への提言
- ・検証Ⅰ・Ⅱを通じた今年度のまとめ→成果と課題及び改善策→次年度への提言

<長期>

- ・学習アンケートと学校評価の結果を受けて改善計画を授業改善部を中心に立案し、改善を図る。
- ・ハーモニータイムで目指す児童の姿の系統表の実践
- ・3部会による実践の成果と課題を共有化→次の目標と手立てを設定する。→「目指す子どもの姿」に迫る手立ての見直しを行う。
- ・一年間、検証と実践を重ねて、今年度の成果と課題を明らかにし、次年度の提言へとつなげていく。

(8) 仮説の検証スケジュール

	サイクル	月	日	メンバー	内 容
I 期	P	4	1	全体	日常の取組等について 4月の学習指導・研修について 諸講座・諸講習について 指導主事訪問授業者の決定 今年度の研究の方向性について(主題・仮説・目指す子どもの姿・共通実践等)
			13	研推	
	D	5	24	全体	5月の学習指導・研修について 今年度の研究全体構想、共通実践事項、研究体制についての検討と共通理解
			8	全体	
			15	全体	
	C	6	7	全体	指導案検討会 1年 算数 7・8月の学習指導・研修について
			19	全体	
A	7	4	全体	第1回授業研究会 1年 算数 【計画訪問】 各部会の内容の検討と振り返り *学習アンケート 指導案検討会 4年 算数	
		10	部会		
		26	全体		
A	8	19	全体	9月の学習指導・研修について 伝達講習(教育課程等) 第2回授業研究会 4年 算数【計画訪問】	
		30	全体		
		9	18	全体	10月の学習指導・研修について
			25	全体	仮説に基づく検証I期(成果と課題、改善策の検討)
II 期	P	10	2	全体	共通実践事項への後期の取組について 第3回授業研究会 6年 算数【校内研】 指導案検討会 5年 特別活動 11月の学習指導・研修について
			16	全体	
			23	全体	
	D	11	6	全体	指導案検討会 2年 道徳 第4回授業研究会 5年 特別活動 【計画訪問】 12月の学習指導・研修について 第5回授業研究会 2年 道徳 【計画訪問】
			12	全体	
			13	全体	
			29	全体	
	C	12	4	全体	第6回授業研究会 3年 特別活動 【校内研】 秋田県学習状況調査の採点・課題分析と改善策の検討 1月の学習指導・研修について 各部会の内容の検討と振り返り *学習アンケート
			11	全体	
			18	部会	
A	1	10	部会	部会の取組について(成果と課題、来年度の改善策の検討) 2月の学習指導・研修について、 仮説に基づく検証II期(成果と課題、来年度の改善策の検討)	
		15	全体		
		22	全体		
P	2	5	研推	令和7年度の研究の方向性について (研究主題、目指す子どもの姿、共通実践等) 3月の学習指導・研修について	
		12	全体		
		3	5	全体	今年度の研修のまとめ 令和7年度の研究推進について (研究主題、目指す子どもの姿、共通実践等)